

別冊

おいしいものがたり

～資料館資料編～ ■「生誕140年 金山平三と大石田」展より

資料館で開催中の「生誕140年 金山平三と大石田」展では『最上川の舟下り』と題された映像を展示しています。これは11分ほどの8ミリフィルム映像で、昭和32(1957)年6月2日に撮影されたことがわかっています。当時としては珍しいカラーである点も大変貴重な映像です。



この動画の冒頭では、虹ヶ丘で背広の紳士たち20名ほどが、齋藤茂吉「虹の断片」歌碑(昭和31年建立)を詣でたり、ビューポイントから最上川の景色を楽しんだりしています。その後で複数の船に分乗し最上川を下っていくのですが、この時船上から撮影された岸辺の様子はとても興味深いものです。昭和30年代といえ現在の堤防が築かれる以前ですので、家並みと最上川との間には一切の区切りがありません。岸に集い船の方に手を振る人々はごく自然体で、ふらっと家の裏庭に出てきたというような風情です。川が生活圏の一部であったかつての大石田の日常の一コマが切り取られています。

そんな舟下り中の記録映像に、舟下りの参加者としてたびたび映り込む着流し姿の老人がいます。顔の彫りが深く、白髪と共に白い口髭をたくわえた、スマートな体つきの老人。どこか飄々とした趣の、周りとは明らかに異彩を放つこのおじいさん。実は誰であろう洋画家・金山平三その人なのです。

やがて一行は上陸し場面は宴会場へと移ります。ハイライトはこの宴会のシーンでしょう。はじめは当時の青木秀男町長らと共に上座に並ぶ金山平三が映し出されますが、座があたたまってくると、映像は婦人会による歌と踊りの余興へと切り替わります。ここで感興を催したのか、なんと金山平三が踊り出してしまうのです。残念ながら音声が無いので何を踊っているのかはわかりませんが、流れるようにしなやかで、要所を締めるメリハリのある動きからは芸の達者さが窺えます。また全身をダイナミックに使い、時には片足立ちで見得を切る姿は、当時73歳(1883.12.18生れ)のものとは思えないほど躍動感に満ちています。何より、楽しそうに手拍子を打ち、ご婦人と戯れに踊って大笑いする様子は愉快的気分させてくれます。

資料館では『最上川の舟下り』の内、金山平三のシーンを2分半ほどに編集して展示しています。Web上や図版などで肖像写真を見ることはできますが、動く金山平三、ましてや踊る金山平三はそうお目にかかれません。是非この機会にご覧いただきたいと思います。

「生誕140年 金山平三と大石田」展は6月18日(日)まで



大石田町公式アカウント開設  
**LINEはじめました**

防災情報などを  
受け取ることができます。  
**友だち登録を  
お願いします!**

登録方法  
右の二次元コードを読み  
取って友だちに追加して  
ください。

大石田町公式LINE

**防災放送の内容を  
電話で確認できます**

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。  
このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。  
**確認ダイヤル: 0237-48-8444**  
■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

町の人口 令和5年5月1日現在		
世帯数	2,250戸	(+1)
総人口	6,233人	(-29)
男	3,091人	(-16)
女	3,142人	(-13)
(4月中の異動)		
出生	0人	転入 13人
死亡	11人	転出 31人

※この人数は外国人も含めたものです。